

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月17日
函館市立上湯川小学校

1 本年度の重点教育目標

気づく子（徳） 動く子（体） 比べる子（知）の育成

2 本年度の取組の重点

①学びをつくる「比べる」 ②心をつくる「気づく」 ③体をつくる「動く」
④自発的・自律的な態度を育む生徒指導
⑤一人一人の教育的ニーズや発達機会の保障
⑧子どもの健康と安全の重視

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①学びをつくる「比べる」	学びをつくる「比べる」は、子どもの姿として表れたか。	b	・メディアの多様化による文字離れが進んでいる。次年度も「多読」の取組を充実させることで、読解力不足の解消に努める。 ・簡単にあきらめず、途中でまでも取り組んだ子を認めるなど、結果より過程を評価することで学習意欲の向上を図る。	A	B	・クロームブックの宿題だけでなく、ペーパーの宿題も大切にしたい。特に漢字の書き取りは、ペーパーの方がよいと考える。
②心をつくる「気づく」	心をつくる「気づく」は、子どもの姿として表れたか。	b	・自分を大切にすることと、他者を大切にすることが繋がるよう、多様性や共生力を育む教育を充実させる。縦割り班や自己評価、他者評価の効果的な活用により、協力することの大切さを理解し、お互いに思いやる心を育成する。	A	A	
③体をつくる「動く」	体をつくる「動く」は、子どもの姿として表れたか。	a		A		
④自発的・自律的な態度を育む生徒指導	児童の自発的・自立的な態度が育成されたか。	b	・進んで挨拶」の評価が低かったことから、教師と児童、児童同士の共感的な人間関係を基盤とした発達支持的生徒指導の充実により、挨拶の習慣化を図っていきたい。	A	A	
⑤一人一人の教育的ニーズや発達機会の保障	校内支援委員会などの機能を活用し、広く教育的ニーズに応じた支援がなされたか。	d	・組織的な対応を可能にするため、教育委員会などに人材の確保を求めていく。	B	B	・先生方の変えを感じ。子どものため、先生方のためにも、人材確保が必要だと思う。
⑥子どもの健康と安全の重視	子どもの命と安全を守るための危機管理の徹底を図ることができたか。	a		A		

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。